

太宰府市短歌ポスト第百二十五期

入選歌(令和七年二月二十八日)

撰者 竹森 祐彦

紅葉に染まる大宰府目に映し生涯忘れぬ新婚の旅

埼玉県 齋藤 麻美

鬱蒼と茂る草木に囲まれし仮殿に歌聖が慥たしかに在います

福岡県久留米市 武藤 裕治

都府楼址の堀にめだかやえびを捕りをさなと遊べり若き父親

福岡県春日市 田久保 節子

思いだす恩師の顔と受験日に握り締めた梅のお守り

熊本県宇城市 井上 莉沙希

故郷は梅の香都由緒あり北の大地に帰れば思う

北海道札幌市 島田 亜希

少しでも明るい進路になるように頭を傾く太宰府の牛

東京都 徳永 遥那

大君の遠とほの朝廷みかどや今になほ守り給ひたり令和の子らを

福岡市南区 馬場 知佳

凧上げて子らの歓声都府楼の風清々しくてあっぱれな空

福岡市中央区 白井 道義

小・中学生の部

だざいふははじめてきたよよにんでねはくぶつかんは おやすみだった

宮崎県延岡市 うえすぎ さな

初詣太宰府の絵馬いっぱいかいた楽しい思い出つくれるように

福岡県大川市 辻 美沙樹